

2006年5月1日

2002FIFA ワールドカップ™記念 日本サッカーミュージアム  
第6回「アドバイザリーボード」の概要報告

2002FIFA ワールドカップ™記念 日本サッカーミュージアムのアドバイザリーボードは、2006年4月28日（金）の14時より16時まで、JFAハウス3階ラウンジにおいて、第6回目の会合を開催した。

**アドバイザリーボード委員 出席者**

木村剛、大住良之、木元教子、民秋史也、高橋功次（平野哲行代理）

**日本サッカーミュージアム**

岡野俊一郎（館長）

小野沢洋（JFA ミュージアム部部長）、津内香（JFA ミュージアム部）

**アドバイザリーボード委員 欠席者**

石井幹子、遠藤安彦、黒田福美、二宮清純、日比野克彦、真野響子

**館長挨拶**

出席者に対してのお礼と、活発な意見をいただきたいとの言葉があり、座長である木村剛氏に進行をお任せする旨の挨拶があった。

木村座長の進行により、事務局より資料1にもとづき、入場者数、特別来客、運営、展示、イベント関連、パブリシティ（プロモーション展開）などについて報告を行った。

- ・ 昨年度の入場者数は、目標 57,000 人のところ 54,653 人であったが、一昨年に比べ増加しており、右肩上がりの傾向にある。
- ・ 特別来客については、12月のFCWC（トヨタカップ）のゲストなど多くの来客を迎えた。
- ・ コカ・コーラワールドカップトロフィーツアーでは強制導線を実施し、3,110名が来館した。入場料はコカ・コーラ社から1,500名分を負担いただき、一般入場者は招待扱いとした。
- ・ 企画展では、トヨタカップ展、Jリーグ Amazing 31などを開催。
- ・ ヴァーチャルスタジアムにて、「高円宮杯全日本ユース選手権組合せ抽選会」、日本代表の各種記者会見、ゲーム機器ソフト発表会などのイベントを行った。
- ・ 湯島天神梅祭りでは、湯島天満宮に大黒選手のユニフォーム展示を行い、ミュージアムの案内を実施した。

## JAPAN FOOTBALL MUSEUM

- ・ パブリシティについては、テレビ、雑誌など各種メディアの取材を受け、少しずつ露出が高まっており、入場者増につながっている。
- ・ 2050年ポール協賛者への入場割引や、JR東日本主催の「駅からハイキング」参加者への入場割引などを実施した。「駅からハイキング」では、街歩きが目的であるため、立ち寄った人は多かったが、B2への入場者は少なかった。今後のイベントを実施する上での参考となった。

続けて事務局より資料2、3に基づき、今後の企画、パブリシティについての説明を行った。

- ・ 4月29日～5月7日までゴールデンウィーク特別営業期間として営業し、スタンプラリーなどの各種イベントを行う。
- ・ 5月13日より、ワールドカップに向けた特別展示「SAMURAI BLUE STADIUM」を開催する。
- ・ 4月30日に、東京ガーデンパレスの企画による「日本サッカーミュージアムウェディング」を行う。
- ・ 東京都交通局の協力により、5月中旬よりワールドカップ終了時まで、都営バス01系統（渋谷～新橋）でラッピングバスを走行させる（車体：青、SAMURAI BLUE 2006ロゴ、ミュージアム広告入り）。併せてバスカード、駅ポスター、中吊り広告を展開させる。本件にかかる媒体料金は東京都交通局に配慮いただいた。
- ・ サッカー協会でも、“日本を青く染めよう！”というキャンペーンを行っており、オフィシャルスポンサーによるイベントが各種行われている。
- ・ JFAハウス前のサッカー通り商店街にブルーフラッグを配布し、各店舗で掲げてもらっている。

続けて事務局より資料4に基づき、今年度予算及び来年度以降の予算目論見についての説明を行い、特に以下の点を述べた。

- ・ 今年度は、ワールドカップにおける日本戦3試合（グループリーグ）をメガビジョンにおさめ、ヴァーチャルスタジアムのコンテンツに使用するための支出約5,000万円を計上している。
- ・ 秋のリニューアルに7,000万円を計上し、今後は大幅リニューアルを行わず展示内容の変更に対応できる仕様にする。
- ・ 経年劣化したミュージアム事務局のサーバーを取替える。
- ・ 収入に関しては、ショップの収入増加（月20万円）と、ヴァーチャルスタジアムの使用による収入（50万円×4回）を見込んだ。
- ・ 以上から収支差である2億3,000万円を記念事業補助金として受ける。
- ・ 2007年度以降は、記念事業補助金を年間1億円（助成期間は残8年）とし、自主運営の方向性を考えていきたい。

## JAPAN FOOTBALL MUSEUM

予算の説明を受け、今後のミュージアムのあり方について、以下のようなご意見をいただいた。（「→」部分は事務局よる回答）

- ・ 記念事業補助金の助成を受けられるのも残り 8 年である。今後どのように運営していくかについては、今から検討し、手を打たなければならない。
- ・ こういう類のミュージアムでは、採算をあわせるということ自体不合理ではないか？ JFA の補助機関（特に、記録、保存機関）として機能すべきでは。
- ・ JFA からの補助金や経済負担はどうなっているのか？ JFA 側にはどの程度の負担があるのか？
  - 人件費なども含め、特別会計で行っている。負担に関してはあいまいな部分が多い。例えば 1F エントランス部分など。
- ・ 現状 10 年間は記念事業からの助成金を受けることまでは決まっている。しかし、今の経営では、毎年 1 億円の助成があっても運営していけないのでは？
- ・ 助成金は、10 年間で使い切るものという発想で計上されるものである。長野オリンピックでも同様であった。11 年後からをどうするかを考えなければならない。
- ・ スポンサーについては、多くは JFA のスポンサーになりたいと考えており、ミュージアムだけというのは難しいのでは。支援を頂くためにはビジョンやメッセージが必要である。
- ・ 支援企業に対するフィードバックは？
  - 年間 200 枚の招待券、呼称利用の権利、機関誌などにおける社名の露出、ヴァーチャルスタジアムの使用权など。
- ・ JFA の一般会計に戻してみて、採算のとれる形を考えていけばよいのではないか。
- ・ 以上のような経営面での改善を検討していくためにも、まずは JFA とミュージアムの位置関係を明確にし、ミュージアムの目的や機能を考える必要がある。
- ・ JFA（代表チーム）の宣伝機関としてだけでなく、将来にわたりサッカー文化を培う場所として位置づけるべきである。メリットだけでなく、文化貢献として捉えるべき。
- ・ ミュージアムは JFA の財産保有的機能（記録・保存）及び PR 機能を持つ JFA の付属機関であり、協会を離れて存在するものではない。よって、JFA が運営するのが当然ではないか。
- ・ 「日本サッカー殿堂」の設置など、ミュージアムの機能も当初から比べると変化してきている。誰が何のために支えるものなのかを考えなければならない。
  - 現状は 2002FIFA ワールドカップ記念館としての要素が大きい。今後は、それにプラスして、JFA のミュージアム構想を盛り込んでいく必要がある。JFA のショーウィンドウとしての役割も必要である。2002 年ワールドカップ開催は、

## JAPAN FOOTBALL MUSEUM

日本のサッカーの貴重な財産であることも常に意識していきたい。

- JFA、ミュージアムが理念を持ち、ミュージアムをどう捉えるかを明確にしていかななくてはならない。同様にスポンサー側も「サッカーへのサポート」として捉えれば、JFA、ミュージアムの区別なく支援できるのでは。
- また、オフィシャルスポンサーだけでなく、個人会員などいくつかの κατηγοリーを設けて、パトロン気分を味わえるような設えをしたらどうか。特典としてのラウンジ利用など。

以上のような意見交換に基づき、アドバイザーボードとして、10年後を見据え、ミュージアムのあり方について、主に以下の側面から論議を始め、提案していくこととすることとした。

- JFAにおけるミュージアムの役割を考え、ミュージアムのミッションを明確にしていく。特に、「サッカーを支え続ける」担い手としてミュージアムを位置づける方向性で考えたい。
- ミュージアムの存続を支える収入源を模索しながら、今後の経営収支について検討していく。

次に、資料5に基づき、今秋のリニューアルについての説明を事務局より行った。

最後に、今後のアドバイザーボードの開催について、予め年間の日程を決め開催することが承認された。今回は委員が半数しか出席しなかったため、次回開催を10月4日(水)午後2時からとし、以降の日程についてはその席上で決めることとして閉会した。

財団法人 日本サッカー協会  
ミュージアム部長 小野沢洋